



まつもと はまじ  
松本 濱次 氏

生年月日 昭和9年1月17日生

住 所 田辺市中辺路町野中

昭和9年(1934年)1月17日、西牟婁郡近野村(現田辺市中辺路町野中)に生まれる。18歳の頃、父の勧めにより田辺市街で営む同郷出身の桶職人のもとに弟子入りし、修行を積む。師匠の下で技術に磨きをかけ、当時市内に数ある桶屋とともに、主な取引先であった大阪へ桶を納品する多忙な日を送る。

昭和40年代の高度成長期に入ると、安価なプラスチック製品が市場に出回り、桶職人の仕事が減少。このため、桶づくりから離れ、市内の製材会社で製材業に従事。

定年により製材会社を退職後、中辺路町野中の実家に戻った際、古い桶の修理を頼まれ、その桶が師匠の大正13年(1924年)の作であったことから運命的なものを感じ、「桶濱」の屋号で桶づくりを再開。厳しい修行の中で身につけた技術は20年余りのブランクをものともせず、以来、20年以上の長きにわたり日々製作に励んでいる。

国道311号沿いの自宅兼作業場では、大小さまざまな木桶が並び、今では桶職人が稀有なこともあって、熊野古道を歩く傍ら訪問される方も多く、テレビ等のマスコミでも紹介されている。そのような中、地元カメラマンが「桶濱」で作業する氏の笑顔を捉えた写真が、平成27年(2015年)の第2回OVER60全国スマイルコンテストにおいて、全国1,645人の応募作品の中から「男性の部」で見事にグランプリを受賞。受賞写真は、まさに氏の人生や人格そのものを映し出した笑顔として高く評価された。

桶づくりのひとつに、「樽(くれ)」と呼ばれる板を一枚一枚組み合わせる「正直(しょうじき)」という工程があり、桶づくりの良し悪しを決定するもので、独特の鉋(かんな)を用い、長年の感覚に裏打ちされたミリ単位で木を削る作業は実に精緻で根気のいる作業である。

また、材料に熊野地方で切り出された杉材を用い、一つ一つを丁寧に仕上げる氏の桶は、木の香りとともに、手づくりならではの温かさと木ならではの優しさを醸し出している。

現在は貴重な桶職人として、桶づくりのほか、桶づくりを学ぼうとする人や遠

## 第 50 回（令和元年）

方から持ち込まれた桶の修理なども気安く受けており、80 歳を超えて今なお精進しようとするその真摯な姿勢と心意気は県内外から信頼を得ており、古から育んできた木の文化、和の文化を今に伝える功績は大きい。

### （学 歴）

昭和 21 年（1946 年） 近野国民学校卒業

### （職 歴）

昭和 27 年（1952 年） 田辺市内の桶職人の下に弟子入り

昭和 40 年（1965 年） 製材会社に勤務

平成 6 年（1994 年） 製材会社を定年退職後、郷里の実家で工房「桶濱」を開設

### （受賞歴）

平成 27 年（2015 年） 公益社団法人 国土緑化推進機構「森の名手・名人」認定

第 2 回 O V E R 6 0 全国スマイルコンテスト 男性の部グランプリ

平成 30 年（2018 年） 和歌山県名匠表彰